

うおーみんぐ

京都府地球温暖化防止活動推進センター通信

No.38 秋



京都府立植物園のカエデ（関連記事p8）



舞鶴漁港で競り市の見学（関連記事p5）



理事3名による鼎談企画（総会にて 関連記事p2.3）



c o n t e n t s

京都府地球温暖化防止活動推進センター 設立10周年！特集

2
3
4

特集1

鼎談企画報告

これからの地球温暖化対策、そして私たちの暮らし

特集2

おかげさまで 設立10周年

年表でふりかえる京都府センターの10年

5

活動レポート

学校給食や社員食堂でできる温暖化防止
ー地産地消でフード・マイレージ減ー

6
7

第6期地球温暖化防止活動推進員 府内各地で活躍中！part2

8

お知らせ

今年もやります、カエデ紅葉日調査

市民の手で生物季節観測を続けよう！

2013年サクラの開花調査報告



京都府地球温暖化防止活動推進センター

Kyoto Center for Climate Actions

京都府地球温暖化防止活動推進センターは、府内の温暖化防止活動を様々な面からサポートし、一層活性化させることを目的に活動するセンターです。平成15年10月10日、府内の多様な団体が連携し新たに立ち上げたNPO法人 京都地球温暖化防止府民会議が京都府知事からセンターとしての指定を受け、その活動を開始しました。

京都府地球温暖化防止活動推進センターの活動は、国、京都府、府内の多様な団体、会員の皆様などのご支援によって支えられています。

京都府地球温暖化防止活動推進センター

設立10周年！特集

この秋、当NPO法人、そして京都府地球温暖化防止活動推進センターは設立10周年を迎えます。今回の特集では、特集1として6月の総会で行われた理事3名の鼎談企画の報告を、さらに特集2では、これまでセンターが歩んできた10年間で年表でふりかえります。

特集1 鼎談企画報告

TITLE

これからの地球温暖化対策、そして私たちの暮らし

去る6月29日、当NPO法人の総会において理事3名の鼎談企画を行いましたので、内容をご紹介します。

宗田 好史
京都府立大学教授
当法人理事

浅岡 美恵
弁護士
当法人副理事長

郡嶋 孝
同志社大学教授
当法人理事長



1 地球温暖化をめぐる政治情勢

宗田 2011年3月の東日本大震災をきっかけに、日本政府は温室効果ガス25%削減という目標をゼロベースで見直そうとしています。IPCC（気候変動に関する政府間パネル）の第5次報告書が間もなく出るわけですが、転換期である今、どのような対策ができるのでしょうか。

浅岡 アメリカと中国が、2国で世界の半分近くの排出量を占め、国際交渉でもこの2国が大きなウェイトを占めています。国連は一国一票主義なので、貧しい国や災害を受けている国の問題をクローズアップすることができますが、やはり大国の発言力は大きいです。

郡嶋 アメリカのシェールガス革命と北米のサンドオイル革命が、状況を大きく変えています。オバマ大統領はエネルギー資源の海外依存から脱しようとしています。それは脱中東にはなっても脱化石資源になるわけではない。

2 エネルギーをめぐる国際的な動き

宗田 再生可能エネルギーは、今後どのように伸びていくのでしょうか。シェールガスなどが登場し、下手をすると埋没してしまうような気がします。

郡嶋 シェールガスは、アメリカ国内で新たな環境問題を生み出しています。パイプライン敷設による森林破壊や、有機剤使用による地下水汚染。森林や水を守りたいグループと、温暖化を防止したいグループが対立しているのです。

エネルギー資源の脱中東依存により、中東はヨーロッパに売り込みをかけており、今までヨーロッパに天然ガスを買ってきたロシアが苦戦にさらされています。そうするとロシアは日本に売り込みをかけ・・・と環境問題は政治問題に発展しています。

浅岡 ハリケーン、大水害、北極海の夏場の氷の減少など、既に気候変動の被害が出てきている。再生可能エネルギーは、そういった危機感から伸びてきていて、これは経済にプラスの影響を与え

ています。

郡嶋 ドイツでは、北部に風力発電設備ができて、南部の工業地帯で電力を使っている。それで、送電線の敷設による森林破壊が問題になって、風力発電は海上に出さざるをえないという話になってきている。

再生可能エネルギーは普及しつつあるが、それがまた違った問題を引き起こしていることは、感じなければいけません。

宗田 東京電力福島第一原発の事故は、世界に大きな衝撃を与えました。ここで世界の温暖化防止の動きと日本の動きが切り離されたように感じます。

日本の意思決定は、再生可能エネルギー推進の方向にはなかなか動かない。根底にある国民の意識改革と、社会システムの変革が必要だと思います。

浅岡 低炭素でかつ原子力に頼らずに、地域での素敵な暮らしを目指したい。原発事故を経験して、日本国民として身に染みて思いました。

郡嶋 我々が原子力をなくさねばと思っている中で、隣国の韓国では原発設置に国が助成していて、中国も原発を増設している。再生可能エネルギーについても、環境を守りたいと思っている人同士の考え方が違ってきている。我々としては、そういった論点を整理し、外にある程度示せるようにしないといけませんね。

3 京都から、私たちからできること

浅岡 政治の事情は複雑だけど、私たちにできることは、省エネ・節電をすすめ、再生可能エネルギーを増やしていくことに尽きます。日本はほとんどのエネルギーを海外から買っているけど、買う量を減らすことは国内経済にとって大切なことです。

宗田 省エネと再生可能エネルギーについては、京都の産業界が技術を持っています。

浅岡 京都には先端企業がありますから、この点から世界に貢献できますね。

京都府内でも、地域によって気候や条件が大きく異なります。地域の暮らし方をみて、地域にあった再生

可能エネルギーを増やす、増やすために何をしたらよいかを考える、これは大事な課題だと思います。

そして、エネルギーを大量に使っている都市部では、省エネ・節電は発電と同等のこと。まだ気がついていない人をどうやって動かすかが課題ですね。

郡嶋 国の環境政策は、リバウンドばかり起こしています。エコポイントなど補助金を出してテレビを買い換えさせたら、大型化した。正しい政策とは、リバウンドが起こらないように、課税するなどして消費を抑制することだと思います。省エネは、技術の開発と同時に、ライフスタイルを同程度に納めることをしなければならぬと、パラドックスが起こります。

宗田 省エネ住宅が普及して、京都らしい町家がなくなったら、これもパラドックスですよ。センターの活動は、これに陥らないように気をつけてきたつもりですし、次の10年を考えるうえでも大切にしたいです。

郡嶋 2006年以降、脱石油、つまり低炭素型のまちづくりが広がってきました。地域や文化に根ざした省エネ型ライフスタイルを発信できるのが京都だと思います。

浅岡 京都は素敵な街ではあるけれど、もっと街の中を歩いて楽しんだり、自転車で通れるようなよい環境がほしい。歩く人や自転車を大切にしながら賑わっている街が外国にはあるので、それを見習って、10年20年かかっても実現してほしいですね。

郡嶋 省エネは「足るを知る」ことであり、自覚的に断念することです。リバウンド、パラドックスという大きな落とし穴に落ちないように、文化や知恵を活かすのが京都のやり方であり、京都が全世界に対して発信できることだと思います。

宗田 京都人が持っているライフスタイルや価値観、生活文化の面で、どう省エネをすすめるかという話ですね。

浅岡 世界や日本の動きは不可欠だけど、最後に力を発揮するのは私たち一人ひとりだと思います。地域の力、センターの重要性はそこにこそあると思います。

特集2

＼おかげさまで 設立10周年 / 年表でふりかえる 京都府センターの10年

平成15年10月10日に産声を上げた当センターは、無事に設立10周年を迎えることができました。この間、多大なるご支援を賜りました皆様に厚く御礼申し上げます。

10年前は、まだ全国的に地域センターの役割自体が明確ではなく、手探り状態での活動開始でしたが、府域の様々な方々と連携して実際に活動する中で多くのことを教えていただき、少しずつではありますが歩みを進めることができました。この10年で培った経験と、皆様とのネットワークという最大の財産をベースに、次の10年の活動に臨みたいと思います。引き続き、ご支援・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

年 度	セ ン タ ー の 活 動	推 進 員 や 地 域 の 動 き
平成15年	センター設立	★第1期推進員84名委嘱
平成16年	省エネ製品普及キャンペーン実施 京のアジェンダ21フォーラムや宮津市エコネットワーク、京都府電機商業組合連合会等と連携して、省エネラベルを活用したキャンペーンを実施。 ウッドマイレージCO₂認証制度 公共土木事業向け製品を対象として認証制度スタート →	取組は全国に波及。これを受け、経済産業省が「統一省エネラベル」を制定。 京都府・京都市は温暖化対策条例の中で、主な家電製品に省エネラベルを貼付することを義務化。
平成17年	住宅建築用資材に対象を拡大	
平成18年	みどりのカーテン普及拡大支援 八幡市環境市民ネット等と連携して、みどりのカーテンに関する実証実験を実施。推進員の皆様や専門家から教えていただいたノウハウをまとめた冊子を作成。	府域全域で推進員らによりみどりのカーテンづくりが実施されるようになり、夏の省エネ策として定着。
平成19年		★第3期推進員221名委嘱
平成20年	きょうとECO-1グランプリ開催 3年にわたり温暖化対策のコンテストを開催し、先進的な取組の情報を収集・発信。グランプリ受賞団体は、全国大会へ。	全国大会に出場した京都代表は、下記の通り高く評価され、全国から注目を集めて波及。 平成19年 京都府立北桑田高等学校 森林リサーチ科一最優秀賞 平成20年 京都市立雲ヶ畑小学校一最優秀賞 平成21年 長岡中央商店街振興組合一銀賞
平成21年		
平成22年		★第4期推進員284名委嘱
平成23年	夏休み省エネチャレンジ 参加世帯数が1万人を超える 中小企業の省エネ支援 きょうとECO-1グランプリで特別賞「環境研究開発賞シニア部門」を受賞した京都シニアベンチャークラブ連合会と連携。京都府の委託を受けて中小企業の省エネ無料診断を実施して、省エネ+コスト削減を支援。	★第5期推進員273名委嘱 推進員による年間活動回数のがのべ1300回以上に到達。
平成24年	低炭素型食の好循環づくり 社員食堂や学校給食での京都産食材利用によるフードマイレージ削減、トラクター等でのバイオディーゼル燃料による軽油使用量削減などの取組を府域の様々な団体と連携してを実施。	
平成25年		★第6期推進員321名委嘱



競り市の見学8/5



調理実習8/5



競り市8/5



府内産の食材を使った料理9/2



調理実習8/5



勉強会9/2



府内産の食材を使った料理9/2

学校給食や社員食堂でできる温暖化防止 ー 地産地消でフード・マイルージ減 ー

きょうと風土コンソーシアム（事務局：当センター）では、「低炭素型 食の好循環づくりプロジェクト」の一環として、社員食堂や学校給食等での地産地消を推進しています。

今年も8月5日、9月2日の2回、地産地消推進を目的に「京都産食材勉強会」を実施しました。

まず、8月5日（月）には、山城南部地区と南丹地区の栄養教諭30名と共に舞鶴漁港へ。競り市や、魚の冷凍切り身等を作る加工場を見学したあと、調理実習で水産物の素材の味を確かめました。

生産者や流通関係者との意見交換会では、積極的に京都府産水産物を利用したいという意見が、多くの先生たちから出され、導入のための具体的な情報（数量、大きさ、入手方法、注文方法など）交換の場となりました。

9月2日（月）には、大阪ガス（株）京滋リビング営業部の協力を得て、「試してみませんか？社員食堂で～京都の山の鹿肉 京都の海のお魚～」というタイトルで社員食堂関係者向け勉強会を実施し、27名の参加者がありました。京都府産水産物や京都産豚肉加工品、与謝野産「京の豆っこ米」などとともに京都の鹿肉についても紹介しました。さらに「鹿肉」をキーワードに「京都府における野生鳥獣の被害と対策について」など京都の森林の現状について学んでいただく機会としました。

学校給食や社員食堂で秋以降、地元産食材が利用されることが期待されます。

低炭素型食の好循環プロジェクト 詳細はこちら

<http://www.kcfca.or.jp/jigyoun/ecolife/post-4.html>

COLUMN

社員食堂で
地産地消

Ⅱ

温暖化防止
キャンペーン

参加団体募集中

地産地消メニューを提供すると、食材の輸送に伴うCO₂排出を削減する効果があります。

今年の秋・冬のメニューで京都府産食材を利用して、温暖化防止に貢献してくれる団体を募集しています。企業のCSR活動、環境保全活動、さらには地域の活性化にもつながるキャンペーンにぜひご協力下さい。

実施期間 ▶ 2013年11月～12月

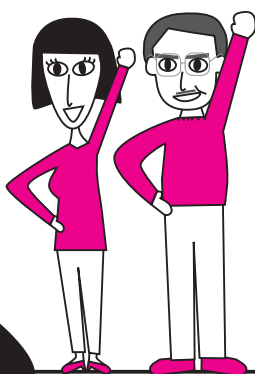
実施内容 ▶ 期間中1日以上社員（学生）食堂等で京都府産食材を利用したメニューを提供し、実施報告を提出する。

キャンペーンの詳細については、こちらまで。
<http://www.kcfca.or.jp/jigyoun/ecolife/foodh25campaign.html>

第6期

府地球温暖化防止活動推進員 市内各地で活躍中！

part2

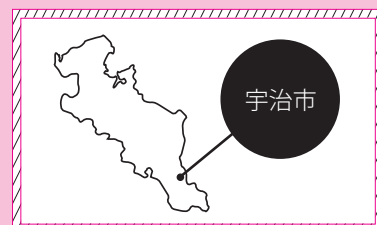


今年2013年は京都府温暖化防止センター設立から10年目。温暖化防止活動推進員の委嘱は6期目を迎え、推進員さんの中には、1期目から活躍されている方も。今年も、京都府での温暖化防止活動をさらに盛り上げます。

そんな推進員さんたちの各地での活動について、前号（37号）では、南丹市、綾部市、京都市の3つの地域を取り上げてお届けしましたが、今号では、宇治市と京田辺市の2つの事例を紹介します。

宇治市

「省エネ相談所」を毎月開催！



パソコンの診断ソフトを活用し、来場者に省エネアドバイスを行う「省エネ相談所」。宇治市で初めて開催したのは2007年。地元のママ向けイベントで、当センター職員の参加に推進員が協力して実施しました。

翌2008年もセンター職員と一緒に開催したのですが、2009年3月に「宇治市地球温暖化対策推進パートナーシップ会議（ecoット宇治）」が誕生。同年から地元メンバーだけで省エネ相談所をスタートし、それ以来5年間にわたって、市役所ロビーで毎月1回開催しています。加えて地元スーパーでも不定期で開催し、開始以来の来場者数は1500人を超えました。

担当しているのはecoット宇治の

「エコライフ推進グループ」。月に1回ミーティングを行い、省エネ学習や相談所スタッフを決定します。最初の頃は当センターから道具を貸し出していましたが、現在ではecoット宇治の予算で省エネグッズ等を購入し、パソコン・プリンタ・机・椅子は市役所が用意するかたちで、自主運営をしています。

「もっと知識をつけてステップアップしたい！」「イベント用の活動ユニフォームをつくりたい！」「出前学習会もやりたい！」メンバーたちの夢はふくらみます。来年は来場者数2000人を達成する予定です！



オリジナルの
のぼり旗

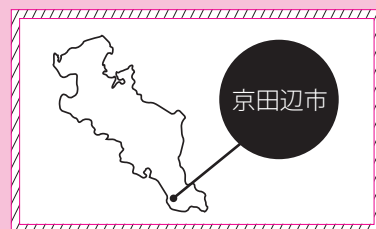
＼ 来場者と話が弾みます。／



＼ 事前アンケートに記入中／



地蔵盆にあわせて「こどもエコ祭り」



去る8月27日、京田辺市東住宅自治会で、町内の地蔵盆にあわせて「こどもエコ祭り」が行われました。

町内在住の推進員の発案により、「できるだけごみが出ないお祭りにしよう」「子どもたちに環境問題を楽しく学んでもらおう」というテーマで開催。地域住民、京田辺市の推進員、「きょうたなべ環境市民パートナーシップ」のメンバー等が協力し、「旬のくだもの・やさい当てゲーム」「手回し発電で走る

ミニ電車」「使わなくなったおもちゃの交換会『かえっこバザール』」「牛乳パックでリサイクル工作」など、楽しい催しが盛りだくさん。また、食べものコーナーはマイ食器の持参を呼びかけ、ごみの少ないお祭りになりました。

会場となった公民館は、間もなく取り壊され、新しく生まれ変わるそうです。長年親しんだ建物に「ありがとう」の想いを込めた集いでもありました。

／ 旬ゲームとごみ分別ゲーム ／



／ 手回し発電で電車が走る！
竹のトンネルは山城地域ならではの？ ／



／ 牛乳パックと太陽電池の電子オルゴールで
「メロディーハウス工作」 ／



／ 地域の子どものための
健やかな成長を祈って・・・ ／



お知らせ Information

今年もやります、カエデ紅葉日調査

市民の手で生物季節観測を続けよう！

「地球温暖化による生きものの影響」を調査から読み取ろうと2008年度から始めた「サクラ開花日・カエデ紅葉日」調査ですが、今年の秋もイロハカエデを中心に紅葉日調査を実施します。調査標本木を決めて毎年観察してくださっている方はぜひ今年も、また初めての方は是非今年からご参加下さい。

とりわけ舞鶴気象台が無人化され「生

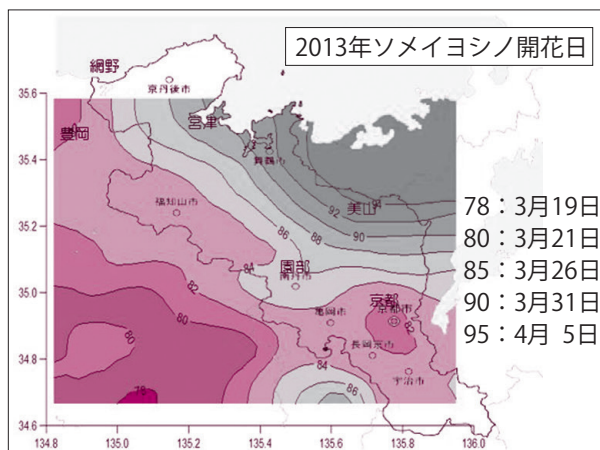
物季節観測」が無くなることもあり、今年の秋からの京都府北部の観察記録はとても貴重なデータとなります。北部にお住いのみなさまの積極的なご参加をお待ちしています。

調査方法および調査用紙は温暖化防止センターのwebサイトからダウンロードできます。<http://www.kcfca.or.jp/>

2013年サクラの開花調査報告

2013年のソメイヨシノの開花日及び満開日は、昨年と比べてかなり早く、満開日が昨年の開花日より早かったです。開花が遅い地点は満開までの日がとても短く、開花から3日で満開になった地点もありました。

(分析：龍谷大学 増田啓子教授)



観測協力者データ：京都府地球温暖化防止推進員42名、龍谷大学学生・職員10名、園部高校学生5人、一般1名で、総勢58人
観測地点データ：73地点 開花日地点54地点、満開日地点64地点

京都府地球温暖化防止活動推進センター通信「うぉーみんぐ」

(平成 25 年秋号 平成 25 年 10 月発行 (年 4 回発行))

発行：京都府地球温暖化防止活動推進センター

(特定非営利活動法人 京都地球温暖化防止府民会議)

理事長：郡嶋 孝

〒604-8417 京都市中京区西ノ京内畑町 41 番 3

TEL：075-803-1128 FAX：075-803-1130

URL：http://www.kcfca.or.jp E-mail：center@kcfca.or.jp

編集：木原浩貴 川手光春 竹花由紀子 西澤浩美 洲上佑樹

法人の活動を支援くださる会員を募集しています！

年会費 正会員（個人）：2,000 円 正会員（団体）：3,000 円

準会員（個人）：2,000 円 準会員（団体）：3,000 円

賛助会員：10,000 円

詳しくは事務局までお問い合わせ下さい。



この印刷物は、古紙配合率 100%の再生紙に、植物油インキで、風力発電による自然エネルギーを使って印刷しています。

